



新2号館(シンボル棟)イメージ



新食堂イメージ

【特集1】②

創立50周年記念特集 第1弾

岐阜経済大学は

2017年4月に創立50周年を迎えます

⑥ 【特集2】 大学は学びの宝庫! 一僕らの研究・大公開!—

⑧ 【特集3】 誌上座談会 一岐阜の地方創生から見る岐阜経済大学の役割—

⑩ 教育最前線

⑫ キャンパス彩々

⑭ キャリア支援課だより

⑯ 輝け!アスリートたち

⑱ Close-up OB

⑲ 研究室だより

⑲ 近著紹介

⑳ お知らせ

⑳ 江西師範大学からの留学生を紹介します

特集1

2017年4月 岐阜経済大学は 創立50周年を迎えます



基本コンセプト

Rebirth

西濃学園都市で新たないぶきを起こす

■第1回入学式(「岐阜日日新聞」(現「岐阜新聞」)1967年4月18日西濃版)



基本「コンセプト」への想い

このコンセプトに込めた想いは、大学の全体的な再生を意味するだけでなく、本学に関係する一人ひとりや、さらには、本学に関心を持つ人へのメッセージとして、学生が生まれかわるよう、ここで成長するという意味が込められています。

1967年4月に、地元自治体、経済界、教育界の要望と支援のもと設立された本学は、2017年4月に創立50周年を迎えます。この創立50年の大きな節目を迎えるにあたり、建学の趣旨を再確認し、ここに再び開学する(生まれる)という気概をもって、創立50周年の記念事業を計画しています。この記念事業を通じ、これまで本学を支えてくださった全ての皆様に、感謝するとともに、新たな歴史の始まりにふさわしい教育研究地域貢献活動を展開してまいります。



大学近景



開学当時の校舎



ハード(キャンパス整備)事業(予定)

- 新2号館(シンボル棟)建設
- 新食堂建設
- スポーツ施設の整備
(第2体育館、女子ソフトボール場)
- 大学正面景観の再整備
- 教室環境整備
(音響・映像・情報機器・机・椅子等)

ソフト事業(予定)

- | | |
|--------------|---------------|
| ○50周年記念式典 | ○50周年記念マーク制作 |
| ○50年誌の発刊 | ○記念動画作成 |
| ○講演会 | ○広報活動 |
| ○シンポジウム | (新聞・ラジオ・ポスター) |
| ○留学生の奨学基金の創設 | ○記念事業報告書の作成 |
| ○コンサート | など |

この記念事業の策定に当たっては、土屋曉理事長を会長、石原健一学長を実行委員長とした創立50周年記念事業実行委員会を立ち上げ、下記のとおり委員会組織を作り、企画立案実行の体制を敷いています。

特に、教育研究施設の拡充整備及びアムニティ・福利厚生施設的环境整備、スポーツ施設の拡充整備に関しては、在学生と教職員から広く要望を聴き、その多くを実現する努力をしています。また、50年の歴史の重みを見事に受け止め、その歩みを心に刻むため、「50年誌」を刊行することを計画しています。

■創立50周年記念事業 実施体制

創立50周年記念事業実行委員会

- 新ビジョン委員会
- 式典・企画広報委員会
- キャンパス整備委員会
- 50年誌編纂委員会
- 寄付金募集委員会
- 校友会記念事業委員会

ハード・ソフト事業の一部を次ページで紹介

創立50周年 記念事業概要



大学正面景観イメージ



キャンパス刷新のコンセプト

- ①自然環境と現代建築の調和のとれたキャンパス
- ②明るいキャンパス
- ③清潔・洒落たキャンパス
- ④活気が見えるキャンパス
- ⑤未来志向で将来性を感じさせるキャンパス



新食堂内観イメージ

キャンパスアメニティと地域交流の
拠点となるカフェ・レストラン



新2号館（シンボル棟）内観イメージ 学びのきっかけをつくる学習環境が充実した校舎

岐阜経済大学創立50周年記念事業募金ご協力のお願い

今回の50周年記念事業は、大学のイメージを大幅に刷新し、若者が集い、活気あふれるキャンパスづくりを行うものです。学生の学びや課外活動、地域に開かれた学術文化行事等、幅広いハード・ソフト事業に取組む内容となっております。

これらの諸事業を推進するため、広く皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。

募金目標金額 3億円

寄付金額 個人:1口/1千円(1口以上)、
法人:口数及び金額は定めておりません

募集期間 2016年4月から2019年3月

寄付金の減免税措置(寄付金控除)について

(1)個人の場合

ご寄付いただいた金額が2千円を超える場合は、「税額控除」と「所得控除」のいずれか有利な方を確定申告の際に選択することができます。

(2)法人の場合

法人からの寄付金は法人税法に基づき、当該事業年度の損金に算入することができます。「受取者指定寄付金」または「特定寄付金」のいずれかを選択することができます。

※申し込み方法等、詳細につきましては、決まり次第公式Webサイト (<http://www.gifu-keizai.ac.jp/>)でお知らせします。

お問い合わせ先

岐阜経済大学 財務課 TEL : 0584-77-3508
E-mail : zaimu@gifu-keizai.ac.jp



藤井 えりのゼミ

ゼミの
研究テーマ

高山市を対象とした財政の 総合的な分析

演習I

ゼミ生より

久野 亜弥香 さん

経済学部経済学科 2年
(岐阜県 大垣商業高校出身)

3日間にわたり高山市の職員の方に行財政や産業、福祉などの現状や取り組みについて教えていただき、支所地域においては、市町村合併について教えていただきました。質疑応答の時間も豊富にあり、様々な質問に細やかに対応していただき、充実した研修となりました。

この演習は地方財政論を専攻するゼミであり、自治体財政の実証分析を学びの中心としています。2015年度の2年生は、都市的な課題、農村的な課題の両方を学びたいという学生の意向もあり、2年間を通じて「高山市を対象とした財政の総合的な分析」を共同研究のテーマとしています。最終的な到達目標は、「財政」を切り口に高山市の実態を明らかにし、そのうえで高山市財政と高山市が抱える地域課題について検討することです。



今年度は、基本的文献の輪読による理論や制度に関する知識の習得と、財政と経済・社会構造に関する統計分析をおこないました。それらをふまえ、高山市の政策について学ぶために、2月8日～10日に高山市役所でのヒアリング調査を実施しました。具体的には、財政運営、観光政策、農業振興政策をはじめとする産業振興政策、子育て支援、高齢者支援をはじめとする福祉政策、都市基盤整備、合併による影響、近年進められている協働の取り組み等についてお話を聞かせていただきました。この演習は、地方公務員、社会福祉士、地域金融への就職を志す「地域」に関心の高い学生を中心に構成されていることもあり、今回の調査を通じて、地域課題について能動的に学ぶ意欲が高まったようです。



ヒアリング調査、統計情報の提供等を通じて、高山市役所、市議会の皆様には多大なご支援を頂いております。そうしたご協力のもとに、来年度にはより内容に踏み込んだ複数回の調査を実施する予定です。

びの宝庫! 大公開!



寺町 英里子 さん

経済学部公共政策学科 3年
(岐阜県 大垣桜高校出身)

今回のUSJ調査旅行では、社会貢献活動担当の方にお忙しい中時間を割いて頂いて、貴重なお話を聴くことができ、とても考えさせられました。企業のある「地域」に目を向け、積極的に活動をされていること、そして、そこにある企業としての想い、担当者としての想いを多くの方に知っていただきたいと思います。

山田 武司ゼミ

ゼミの
研究テーマ

ソーシャルワークの臨床

演習II

本ゼミでは、福祉や支援の現場に入り、自ら「支援とは何か?」を感じ取り、考えていくことを目標にしています。そのために必要なことは「笑顔」。笑顔いっぱいのゼミを目指しています。

3年生のゼミでは、夏休みに大阪への日帰り調査旅行を行い、午前中に株式会社ユー・エス・ジェイの社会貢献活動、午後からは豊中市社会福祉協議会の「豊中び〜のび〜のプロジェクト」(発達障がい者等の支援)へのインタビュー調査を行いました。

この調査は、日本で有数のテーマパークと、先駆的な地域福祉を実践している社協での、支援の現状を調査するものです。さらに、2年次に行った「利用者との関わり」から幅を広げ、「支援者を通して」支援を考えるものでもあります。

調査旅行後はゼミナール大会に向けて調査をまとめていき、最終的にはUSJでの調査に東京ディズニーランドの内容を加え、「夢だけじゃ終わらせない!!-USJとTDRの社会貢献活動-」として、ゼミナール大会で発表しました。残念ながらゼミナール大会では賞には届きませんでした。しかし、テーマパークが社会貢献として、障がいや病気を抱えている方々の「現実」の中に「夢」を届けることが、どれだけ「生きる希望」への支援となっているのかを、ゼミ生たちは精一杯報告してくれました。



韓 金江ゼミ

演習II

ゼミの
研究テーマ

地元企業の研究

2015年度の研究は、地元の100円ショップ「セリア」を対象に行いました。

前学期は、小売業の基礎知識と100円ショップの仕組みの大枠を学びました。講義を受けた後、各自で本や雑誌記事などを中心に、調べたことを発表しました。前学期の学習を通じて、100円ショップの経営で大事なことは、いかに販売数量を増やし、いかにたくさんの顧客に買ってもらうかであることが分かりました。また、利益率を上げるために、生産コストを抑えることが重要であり、人件費の削減、低い流通コスト、外国での安価な生産などの工夫がなされていることも知りました。

後学期は、セリアについて、新聞記事やネット記事を中心に具体的に学びました。また、大垣市にあるセリアの本社を訪問し、平野義幸総務部長にマーケティング戦略を伺いました。実際に訪問して、文献や資料以外の情報を聞くことができ、良い勉強となりました。企業訪問から得た経営戦略の知識を一言でまとめると、「企業経営にとって大切なのは、顧客が満足する商品を提供すること」です。



ゼミナール大会での発表テーマについては、各自がそれぞれ自分の意見を出し合って決め、発表の準備もお互いに協力して進めていきました。

ゼミナール大会での発表テーマについては、各自がそれぞれ自分の意見を出し合って決め、発表の準備もお互いに協力して進めていきました。

ゼミナール大会での発表テーマについては、各自がそれぞれ自分の意見を出し合って決め、発表の準備もお互いに協力して進めていきました。



荒木 基巨 さん

経営学部スポーツ経営学科 3年
(愛知県 木曾川高校出身)

ゼミでの一年間の研究を通じて、セリアのことだけではなく、100円ショップ業界や、小売業のビジネスの基本を学ぶことができました。そして、何よりも人前で自分たちの考えを伝える勇気が生まれてきました。この経験を活かして来年の就職活動も頑張っていきたいです。

特集2

大学は学 僕らの研究・

伊藤 嘉人ゼミ

教職総合演習

ゼミの
研究テーマ

中学生に原発をどう教えるか？ —中学校保健教材における 健康と放射線の授業構想—

本ゼミは、中学校・高等学校の保健体育教師をめざす学生が所属しています。1年を通して、実践力のある教師の資質と能力を高めるべく演習活動を行ってきました。ゼミナール大会では、学びの成果を発表する場であると位置づけ、「保健の授業づくり」について研究成果を発表しました。

保健の授業のなかでも、「原発」・「放射線」を研究テーマに選んだ理由は、「原発」「放射線」は「命」にかかわる大問題であるということ、今日においても事故による汚染が続いていること、私たちが毎日使用しているエネルギーに関わる重要な課題であることなど、「健康と環境」に関わる課題・問題であるにも関わらず、現在の中学校・高等学校保健科の教科書に掲載されていなかったからです。

授業構想では、中学生に対して、「どのような切り口で原発・放射線の授業をできるのか」、「中学生の身近なものから『原発』・『放射線』について考える」、「『原発』・『放射線』に関わって悩み苦しむ人々に共感し、思考をめぐらす」、「授業内容に関わって中学生の関心、ますます知りたくなる教科内容を考える」、「どのように放射線と付き合っていくか思考し、自分自身でできることを考える」ということを中心にゼミ内で議論を重ねてきました。文献や資料



だけでなく、現職の中学校保健体育教師にもヒアリングさせていただきました。また、実際にキャンパスにおいて、放射線を測定しました。

本研究を通して、「原発」「放射線」のような社会問題に関わる内容の授業をするには、事実とデータから言える複数の判断を示し、それを探るように促し生徒へ問いかけていくことが求められると学ばされました。本研究の成果を、来年度行う教育実習に活かしてほしいと強く思いました。



校内での放射線測定



長尾 亮汰 さん

経営学部スポーツ経営学科 3年
(岐阜県 美濃加茂高校出身)

ゼミナール大会では、原発問題について保健の授業を考えました。さまざまな観点から子供たちに理解してもらえるように工夫しました。原発問題は保健の授業で大きく扱われないので、授業づくりは大変でしたが、これから教師を目指していく上で良い経験になりました。

岐阜の地方創生から見る 岐阜経済大学の役割



海津市・行基寺から西濃地区を望む

座談会参加者



竹内 治彦氏
地域連携担当副学長・経営学部教授
大垣市「大垣市地域創生総合戦略策定委員会」委員長他、山県市、関ヶ原町、白川町で同様の委員会の座長を務める。



勝田 美穂氏
経済学部教授
神戸町「神戸町まち・ひと・しごと創生有識者会議」会長



野崎 道哉氏
経済学部准教授
輪之内町「輪之内町総合戦略推進委員会」委員



菊本 舞氏
経済学部准教授
大野町「おおの創生総合戦略検討委員会」委員長



高橋 信一氏
経営学部教授
海津市「海津市創生総合戦略推進懇談会」アドバイザー



小川 尚紀氏
まちなか共同研究室マイスター倶楽部
地域連携推進センター
チーフコーディネーター
垂井町「垂井町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」委員

政府の「まちひとしごと創生本部」は、国の総合戦略を定めるとともに、自治体にも人口ビジョンと総合戦略の策定を求めました。策定には各界の代表が参画することになり、本学からも6名が、9自治体に参画しました。各自治体の様子を総括し、本学が、地方創生に果たす役割を展望しました。

竹内 それぞれの自治体の様子を紹介してください。

高橋 海津市では市長が議長をされ、自治連合会、商工会や金融機関、海津明誠高校、西濃県事務所などから委員が参加されました。政府や県の計画を参考にしつつ、基本方針を検討していきました。海津市は人口減少傾向にあるので、歯止めをかけねばならず、育児支援も含めた総合的方針案となりました。農業の担い手確保、地域特産物ブランドづくり、お千代保稲荷や木曾三川公園等の観光名所、道の駅、温泉施設などの集客促進、交通不便の解消方法などが含まれています。

竹内 大垣市の人口減は県内では小さい方で、現在約16万人の人口を、2060年でも15万人以上で維持することを目標にしました。出産の多い30歳前後の人口は減り、死亡率の高い高齢世代が増えるので、自然減は避けられません。これに対し、大都市への転出を減らし、人口減を小幅に留めることが課題です。子育て日本一をアピールし、若い世代を引き付けることが第一目標になりました。

菊本 大野町の場合、進学就職結婚等をきっかけに転出傾向はありますが、30歳代等の子育て世代は住宅取得等により転入する傾向があります。そこで、大垣市と同様、「安心して子育てができる環境」への期待が大きくなっています。

議論のキーワードは「人材の不足」でした。企業の人材不足感は慢性的な課題で、若い世代の定着による労働力確保策が求められていました。

勝田 神戸町も2005年をピークに人口減少局面にあります。合計特殊出生率が低く、自然減が続きます。また、近隣市や愛知県への転出が多い、若い世代を中心に仕事や結婚を理由とした社会減が続いています。そこで、出生数の上昇と転出の抑制、転入の促進を基



笹尾山 石田三成陣跡

本とした施策展開が議論されました。

産業雇用の創生、交流人口・滞留人口の拡大、結婚から子育てまでの支援、福祉、生涯学習、スポーツ等の地域活動を通じた「コミュニティ形成、西濃広域連携による魅力向上」が大きな目標です。観光にも力を入れ、昨年4月に担当課を設け、ゆるキャラ「はら菜」を活用しつつ、町の魅力を発信しています。「こどもブランド」を認定し、アンテナショップも設置しています。

竹内 観光については、大垣市も西濃圏域に本県市も加えた広域連携を提案されており、連携事業も始まっています。関ヶ原町は自然減、社会減とも多くなる中、観光による活性化が一つの柱となっています。岐阜県が、関ヶ原の古戦場を活用した広域連携に熱心なので、それに呼応した事業計画が練られました。

小川 垂井町は、中央に国道21号線とJR東海道本線が通っており、名古屋へのアクセスは悪くありません。比較優位を生かし、工場誘致に関する条例を策定、工業立地により町を発展させてきました。今回の特徴は、住民参画の仕組み、若者リターン者等の就労雇用環境づくりの取り組み、ふるさと納税拡充等のシティブロモーションの三つです。

野崎 輪之内町では自然減対策として、結婚を望む若者が希望どおり結婚できるよう地域をあげてサポートする、結婚したカップルの子育て支援を充実させる、国の長期ビジョンヘルメット出生率を上昇させるなど、環境面の支援を考えています。社会減対策とし

て、企業誘致や起業支援により雇用を創出し、職業理由の転出を抑制しつつ、U・Iターンを促進することで、外需依存型経済構造から内需型経済構造への転換が企図されました。

竹内 合計特殊出生率は県内最低水準の山梨市の場合、結婚時での転出が多く、周辺自治体の吸引力に対抗することが課題でした。子育て環境は整っているのに流出超過なので、ブランド力を高めることを意識しました。白川町の場合、大きな雇用が美濃加茂市まで少なく、人口減は岐阜県最大に予測されています。地域への愛着は非常に高いので、今日の主力の製茶や、かつての基幹産業の東濃槽の販路創出拡大が具体的目標です。

岐阜県全体に人口高齢化が進み、今後30年では自然減は避けられない。いかに転出を防ぎ、若い世代を呼び込み、活性化を図るかが課題といことだと思えます。その中で、本学はどんな役割を果たせるでしょうか。

高橋 海津市では、地元高校や商店街との連携が謳われていました。スポーツによる地域活性化や、まちづくり出前講座開催も企画されていました。海津明誠高校では商品開発と道の駅での販売も構想しています。本学との高大連携を活用し、本学学生も一緒に学びながら、地域の活性化に結び付く取組みを行う。あるいは、スポーツに取り組み学生が「スポーツ」による地域活性化に協力することもできそうです。

勝田 本学には「公共政策特論」というオムニバス科目があり、自治体の方に講義をお願いしています。自治体職員の方の負担を増やしている面もありますが、講義の場を活用し、地域の問題を学生に伝え理解を促すことは、地方創生の種蒔きのチャンスです。自治体職員の方にも、何か気づきがあればということも常に考えています。

また、広域連携は有効ですが、自治体それぞれに利害があります。本学は地域の地(知)の拠点として、公益的な観点から連携が円滑に進むようお手伝いができればと思います。

小川 戦略策定では、住民の意見を聞きアイデアを出し合うワークショップがありました。私はファシリ

テーター(進行役)として参画しましたが、学生も、中高生グループのファシリテーターを担当しました。様々な意見やアイデアを引き出し、調整するファシリテーターとしての参画は、教職員や学生が役割を發揮する格好の機会です。学生は、余所者視点を持ち、また、中高生にとって、「お兄さんお姉さん」で、意見を引き出しやすい存在です。また、「コミュニケーション」や論理的思考を鍛える機会にもなりました。

野崎 私は少し専門的観点から提案します。まず、地域振興、企業立地等に関する事業等について、定量的に検証することが必要です。そうした分析で、シンクタンクとしての役割を果たすことができます。また、特徴的的事业について、ヒアリング調査、作業体験などを含めて、学生のアクティブラーニングの場として活用することも考えられます。

菊本 大野町では「大野の太鼓判」という特産品認定事業がありますが、道の駅の開駅に向けて、さらなる特産品開発に乗り出しています。以前、大野町商工会を通じてマイスター倶楽部の学生たちが商店街調査及び再生事業に取り組んだことがあります。大学生や地元高校生、子どもたちをまきこんで地元資源調査から商品開発まで一貫した取り組みをやるという面、いかもいれません。6次産業化については、マーケティングを含む情報分野からの教員や学生の参加も期待されます。

竹内 教職員、学生の関わりが多様に考えられ、頼もしいですね。それらを点の活動に終わらせるのではなく、全体として有機的な取り組みに組織する。そうすることで、ノウハウや知財が本学に蓄積され、再生産されて、発展的に活用されていく仕組みづくりが必要だと痛感しました。

菊本 より包括的には、人材育成の役割があります。地方では、企業の人材不足感が慢性化しており、企業、一スと学生をマッチングする取り組みが必要です。若い

世代の転出は圧倒的に進学就職のタイミングです。本学が地元の高校生から進学先として積極的に選ばれる大学になり、存在感をより高めることが最高の地域貢献になります。地元で進学就職したいと思うことの出来る魅力的な学びを追求し、人口の流出を留める一助となるのが、地方大学の使命ではないでしょうか。

竹内 まったくその通りです。本学らしい地域実践教育を通じ、地域で学び、地域をつくる。そのための力リキレムを磨き上げ、発信し、共感していただける同志を増やしたいですね。



「私立大学等教育研究活性化 設備整備事業」で3年連続採択!

2013、2014年度に続き、今年度も文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団が共同で実施する「私立大学等改革総合支援事業」に申請し、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」にて、学内にリアルタイムモーション計測システムに係る機器を整備する事業が採択されました。整備概要は次の通りですが、事業の目的は、これらの機器を使用したスポーツ動作分析の実践を学生自らが能動的に行うことにより、スポーツ科学について頭で理解するだけでなく、スポーツ科学の実践を経験し、将来のスポーツ活動に科学的な視点を取り入れられるようにすることです。また、「体育授業インターンシップ」、「体育実技」、「健康とスポーツ」の科目においても、実習で得られたデータの活用を予定しています。

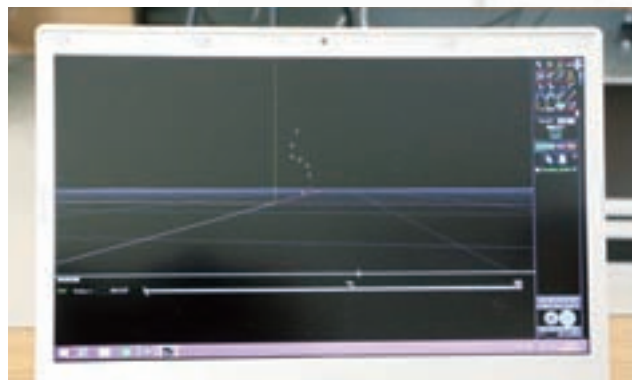
学生が実験、データ入力、分析を行い、結果の変化を生み出すという、科学的手法の繰り返しを実際、能動的に学び、科学的な態度を形成することが期待されます。

■ウエルロード200E(傾斜装置&外部制御付)



スポーツ動作分析の授業において室内でランニング動作を撮影するために必要なランニングマシンです。

■170万画素360Hzカメラシステム



リアルタイムモーション計測システムの中心となる動作分析用の赤外線カメラです。3台の赤外線カメラにより、被験者の位置をリアルタイムで三次元的に解析することができます。関節の角度の変化や体の各部位の移動速度などを即座に計算することができ、直感ではなく客観的なデータに基づいたスポーツ指導のための情報を得ることができます。

■オプトジャンプ・ネクスト(5mセット)



被験者の足元に設置することで、被験者のランニング中の歩幅、ピッチ、接地時間などを測定することができるものです。高感度光学センサーにより、1/1000秒単位で計測することができ、被験者の走り方の特徴を細かく分析することができます。

企業人育成課程 初の外国人留学生

ウィリアム・ビクター・シユミッドさん

(経済学部経済学科 2年)



ウィリアムさんは2年次から企業人育成課程に転入されましたね。入学後、企業人育成課程に転入したのは、何か理由がありますか？

元々経済学に関心があったのですが、特に「企業の経営」「企業の戦略」と「企業の売上」はどのように関連しているのか、どのような影響を受けているのかを学びたくて企業人育成コースに転入しました。それにこのコースは、私のような外国人にとって、とてもいい日本語の勉強になると思います。

企業人育成課程に転入してよかったこと、また大変なことはありますか？

大変なところはやはり日本語です。自分の実力はまだ不十分だと思うので、授業で聞いた話をもう一度自宅で調べて確認することもあります。それに毎週出される課題が多いことです。このコースは共通の関心を持っている方ばかりなので、いつも皆で助け合って各企業を研究できることがよい点です。皆が真剣な雰囲気でも勉強に取り組む姿



地元・大垣の十万石まつりに参加



企業人育成課程で矢橋工業(株)を見学



2015年度は岐経祭実行委員としても活躍

勢は、社会人になってからきつと役に立つと思います。また、自分の人脈を広げることが出来ることもよい点です。

これまでの企業人育成課程の授業で最も印象に残っていることを教えてください。

このコースに入る前は、一度も企業見学をしたことがなかったので、一番印象に残っているのは、初めて行った(株)トーカイの工場見学です。会社の社風を感じることができてとてもよかったです。社内の見学の後に、会社の背景をさらに詳しく聞かせてもらい、たくさん質問をしました。私にとってその時の感覚は一生忘れないと思います。

これからの意気込みや目標を聞かせてください。

私はこのコースに入ったことで、様々な知識を身につけられ、個人的に成長できたと思います。しかし、今の私はまだまだだと思います。ここで大丈夫だと思ったらこれ以上成長しないと思っているので、これからも企業の研究や資格試験などに頑張っていきたいと思います。



キャンパス 彩々 Campus Saisai

第43回学内ゼミナール大会開催!

12月9日(水)、第43回学内ゼミナール大会が開催されました。ゼミナール(演習)単位で日頃の研究成果を発表し、教室毎に優秀賞を競うこの大会も43回目を迎え、今年もアベノミクスやプロスポーツクラブのマーケティング戦略、ソーシャルメディアを活用した広報や保育所待機児童問題など、実に幅広いテーマで30ゼミ・33チームが発表しました。



篠田ゼミ

アスリートと睡眠



井上ゼミ

音声カードを利用する
神経衰弱サイトの開発



佐藤(後)川ゼミ

アベノミクスの
金融政策について



谷江ゼミ

ドイツの電力市場の自由化
-日本への教訓-



韓ゼミ

100円ショップの仕組みとマーケティング戦略
-セリアの事例を中心に-



議長を務めて

経済学部 経済学科 3年 安吉 晋也
(富山県 高岡西高校出身)

今回、ゼミナール協議会議長を務めてみて、苦労の連続だったと思います。議長になった時点では、自分は何をしらいいのかまったく分かりませんでした。ですが、教務課の方に一からしっかりと教えていただき、そして協力していただいたおかげで、何とかやりきることができました。そして、ゼミナール大会当日では、大きなトラブルも起きることなく、自分も議長としてしっかり役目を果たすことができたと思います。確かに、このような仕事は大変に思われがちですが、やり終えた後の達成感というのはその本人しか味わうことができないものです。興味が少しでもある人は、ぜひやってみようと思います。



岐経祭開催! テーマは「経爆」



沖縄県人会のエイサー披露

今年で49回目となる「岐経祭」が2日間にわたって開催されました。

今年のテーマは「経爆」。爆発するくらい盛り上がりとういうテーマに、学園祭実行委員会の意気込みが感じられる2日間となりました。

メインイベントのアーティストライブには、沖縄県出身の男性4人組バンド「かりゆし58」を迎え、約1100名もの来場者を前に、ステージでは本学の沖縄県人会のエイサーとコラボするなど、大いに盛り上がりを見せました。



模擬店も賑わっていました



実行委員会のメンバーが新聞社でPR



幻想的な夜のステージ

内定者報告

OKB 大垣共立銀行



経済学部経済学科 4年

宮川 昂久

(株)大垣共立銀行 内定
(岐阜県 多治見高校出身)

私が金融業界を選んだ理由は父にあります。父が銀行員で、その姿を見てきたことが大きく影響していると思います。銀行員としてのつらさややりがい、就職活動が始まる前から聞いていました。そのため、銀行員として必要になってくる資格を、在学中にいち早く勉強して取得できたのがよかったと思います。また、インターンシップを通して、自分が銀行で働くイメージを持つことができたと思います。

大垣共立銀行は「お客様に選ばれる銀行」としてサービスの一歩先を考え挑戦している銀行です。私自身も時代に屈することなく、挑戦し続ける人材に成長したいと思志望しました。

就職活動としては、解禁日の後ろ倒しにより時間があつたので、キャリア支援課や外部講師の今枝先生に協力してもらい、履歴書の作成や面接練習を重点的に練習していました。また、受ける企業のリストを作成し、何月から選考が始まるのか、面接は何回あるのかなどを把握した上で、合同説明会や企業説明会に多く参加し、情報収集を行いました。大垣共立銀行の採用試験に臨む前にいくつかの企業を受け、筆記試験の練習や面接の練習を重ねました。落ちた時こそ何がダメだったのかを考え、次に繋げるかと思ひます。

一生に一度の経験で戸惑うこともあると思いますが、後輩の皆さんが人生の先輩方の話を聞いて学んで、納得のいく就職活動になることを願っています。

信越の総合物流商社 西濃運輸



経営学部スポーツ経営学科 4年

神原 大貴

西濃運輸(株) 内定
(静岡県 二俣高校(現天竜高校)出身)

私は物流の業界を選びました。その中でも西濃運輸を選んだ理由としては、企業説明会で人事部の方の「人々の生活には、物があふれています。どのような物も、届ける人がいなければ私たちの手元には来ません。大げさに聞こえるかもしれませんが、物流の存在なくして現代社会の生活は成り立つことができないのです。そういった点で物流と人間は切っても切れない関係にあるといえます。」という言葉に、とても説得力があり、魅力を感じたからです。また、実際に先輩社員のお話を聞くことで、職場の人間関係の良い印象を受けました。その他に、全国に支店があるため、多くの人と関わりを持つことができ、自分自身の世界を広げることができると思ったからです。

就職活動内容としては、主に、企業が企画する説明会に参加しました。内定までの道のりは筆記試験(適性検査、SPI)、面接(個人面接、集団面接)がありました。西濃運輸は、面接重視で個人面接、集団面接を含め、計5回行いました。

業界によって多少異なると思いますが、自己PR、志望動機、入社後の目標、関心のある出来事などを言えるようにしておけば、面接はほぼ大丈夫だと思います。また、グループワークもあつたので、協調性、「コミュニケーション能力も重要になってくる」と思ひます。

海津市



経済学部公共政策学科 4年

水谷 丹音

海津市役所 合格
(岐阜県 大垣南高校出身)

私が公務員を目指した理由は、長く安定して働くことができるためです。加えて大学で福祉について学ぶうちに地域福祉について興味を持ち、地元海津市の地域福祉に携わる仕事がしてみたいと思ひ、市役所職員を志望しました。とはいえ元々は福祉施設への就職を志望していたため本格的に公務員対策を始めたのは3年生の12月ごろからでした。

幸いアルバイトの関係で普段から英語や数学に触れていたため、試験対策自体はそこまで苦戦しませんでした。しかし履歴書や面接シートなどは一人で書き上げるのは難しく、PAC支援室に常駐されている公務員対策の先生やキャリア支援課の方たちに協力して頂きました。面接は就職活動中に数回行いましたが、どれも「できた」とは思えませんでした。面接はやり過ぎかな?と思うくらいにくり返し経験した方がいいと思います。私の場合、市役所の前に県庁の面接を受けたため「公務員の面接」を体験できました。これは市役所の面接にプラスになったと感じています。

公務員志望に関わらず就職活動をされる方たちへのアドバイスとしては、「一人でやる部分と他人の協力を仰ぐ部分を明確に分ける」ということです。いつ説明会に行き、どの会社を受けるかなどは、自分ひとりで計画を立てスケジュール管理をする必要があります。一方で履歴書や面接練習などは自分ひとりでやるより、友人やキャリア支援課の方たちの力を借りるほうが確実にいい結果に繋がります。肉体的精神的にも、体調にだけは気を付けて満足の結果が出るよう、頑張ってください。

「みんな」で「内定」!

集中セミナー開催

2017年3月卒業予定者(現3年生)を対象に、1月9日(土)・10日(日)の両日、「みんなの内定獲得(みんな)集中セミナー」を、また沖縄県出身者には「Uターン就職セミナー」を、それぞれ学内で開催しました。

121名の学生が申し込んだ「みんな」では、「キャリア形成」の授業でもご担当いただいている今枝正史氏を講師に迎え、目標設定や自己分析に加え、自己紹介リレーやグループディスカッションといった、セミナーならではの実践指導を多く採り入れて意識を高めました。就職が決定している4年次生のチューター5名の指導や徹も効果的で、開始時と終了時では学生の表情も声の張り方も随分変化していました。

一方「沖縄Uターンセミナー」は就職コーディネーターの砂川政一氏を沖縄から招き、沖縄出身の3年次生全員と応援に来てくれた4年次生内定者で、2日間の濃い濃いセミナーとなりました。「沖縄の企業へのアプローチはとにかく訪問が大切。岐阜経済大の学生らしく元気に、身だしなみに細心の注意をすれば大丈夫」と力強い言葉を頂きました。セミナーには、毎年チャレンジしている沖縄の食品メーカーさんが来学して下さり、緊張の中にも和気あいあいとした懇談会でした。

就職活動への気構えやテクニックだけでなく、「仲間同士の協力の重要性」も感じながら、2月以降のレギュラーセミナーを経て、いよいよ企業訪問本番へと向かっていきます。



砂川氏による「沖縄Uターンセミナー」



先輩チューターから様々なアドバイスをもらいました

インターンシップの成果を発表

岐阜県内企業等でインターンシップ(就業体験)をした学生による成果報告会が、11月25日に岐阜県インターンシップ推進協議会主催で開催され、5大学の学生が参加。本学からは経済学部経済学科3年の近藤晋司さん(岐阜県 市立岐阜商業高校出身)と竹下尚吾さん(岐阜県 大垣南高校出身)が、大垣西濃信用金庫でお世話になった実習について、企業関係者ら約150名を前に共同で報告しました。「参加動機」「実習内容」「学んだこと」「自己の課題と今後の取り組み」という流れで7分程度にまとめる中で、「涉外業務研修」が最も刺激を受けたと口を揃えています。「他大学の発表を聞くことで様々な業種について学び、学生たちとの交流もできました(近藤さん)」「人事の方々の率直なお話を聞いたのが勉強になりました(竹下さん)」とそれぞれが振り返っていました。



2016年3月卒業予定者の主な内定先(五十音順)

平成27年12月31日現在

行政機関・教育機関等

愛知県警察官、(公財)大垣市体育連盟、大野町役場、海津市役所、警視庁、静岡県警察官、富田高等学校、飛騨市社会福祉協議会、福井県警察本部、防衛省・自衛隊、養老町消防本部

民間企業等

ICDAホールディングス(株)、アイシン辰栄(株)、愛知日野自動車(株)、(株)あきんどスシロー、(株)アクトス、(株)あさひ、イビデン産業(株)、イワタニ東海(株)、(株)エスケーアイ、越前丹生農業協同組合、NTN(株)桑名製作所、(株)大垣共立銀行、大垣西濃信用金庫、(株)オーシーズポーツ、カネ美食品(株)、北恵(株)、ぎふ農業協同組合、(株)クスリのアオキ、(株)コスモネット、シンフォニアテクノロジー(株)、シーシーエヌ(株)、生活協同組合コープみえ、西濃運輸(株)、(株)扇港電機、(株)大和、高山信用金庫、ダンロップタイヤ中部(株)、中部国際空港旅客サービス(株)、敦賀美方農業協同組合、東海マツダ販売(株)、東濃信用金庫、トヨタカローラ岐阜(株)、トヨタカローラ静岡(株)、トヨタグループ、トランス・コスモス(株)、名古屋製酪(株)、名古屋トヨペット(株)、西美濃農業協同組合、(株)ネクステージ、濃飛西濃運輸(株)、長谷虎紡績(株)、(株)パローホールディングス、東びわこ農業協同組合、飛騨農業協同組合、(株)ビッグモーター、(株)ヒマラヤ、富士ソフト(株)、(株)ベネッセスタイルケア、峰澤鋼機(株)、めぐみの農業協同組合、メディカルケア・サービス(株)、(株)山久、吉田郡農業協同組合、米津物産(株)、ラオックス(株)、ラブリーQueen(株)、リゾートトラスト(株)、(株)琉球銀行



駅伝部
EKIDEN



輝け!
アスリートたち

秩父宮賜杯 第47回全日本大学駅伝対校 選手権大会に出場!



秩父宮賜杯第47回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会(予選会)で優勝した駅伝部が、11月1日(日)に開催された秩父宮賜杯第47回全日本大学駅伝対校選手権大会に出場しました。選手たちは、秋晴れのなか名古屋・熱田神宮から三重・伊勢神宮106.8kmを8区間に渡って、目標とする17位以内を目指して走り抜きました。結果は20位で、一昨年に初出場したタイムを18分24秒縮める5時間34分42秒でのチーム記録更新は、選手たちの持てる力を出し切ったものと言えます。

沿道から熱い声援を送ってくださった皆さん、ありがとうございました。



陸上競技部

TRACK AND FIELD

全日本インカレ男子三段跳4位! 日本ジュニア2種目入賞!

9月11日(金)から13日(日)、第84回日本学生陸上競技対校選手権大会がヤンマースタジアム長居にて行われ、男子三段跳で4年生が4位入賞を果たしました。日本学生個人選手権大会の5位に続いての全国入賞となります。今大会は、個人7種目、リレー3種目に出場し、本学創部以来最多出場種目数になり、全国レベルに挑戦する選手が増えています。

10月10日(土)・11日(日)には、東海学生陸上競技秋季選手権大会が長良川競技場にて行われ、男子走幅跳、男子やり投、男子4×400mRの3種目で優勝! また、水野佑哉さんは、この大会で最優秀新人賞も獲得しています。

また10月16日(金)から18日(日)、日本ジュニア選手権大会が瑞穂陸上競技場にて行われ、男子走幅跳で3位、男子やり投で7位入賞を果たしました。



●第84回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)

【種目】男子三段跳 【記録】15m63 4位入賞
渡部 昇(経営学部スポーツ経営学科4年 三重県 桑名工業高校出身)

●第42回東海学生陸上競技秋季選手権大会 優勝種目

【種目】男子走幅跳 【記録】7m25
井野 貴史(経営学部スポーツ経営学科3年 富山県 龍谷富山高校出身)

【種目】男子やり投 【記録】66m28
水野 佑哉(経営学部スポーツ経営学科1年 岐阜県 大垣商業高校出身)

【種目】男子4×400mR 【記録】3分15秒43
川満 健太(経営学部スポーツ経営学科1年 沖縄県 那覇西高校出身)
荒木 海人(経営学部スポーツ経営学科1年 大阪府 大阪高校出身)
谷崎 吉泰(経営学部スポーツ経営学科1年 高知県 岡豊高校出身)
小田 直弥(経営学部スポーツ経営学科1年 新潟県 新潟産業大学附属高校出身)

●第31回 日本ジュニア選手権大会

【種目】男子走幅跳 【記録】7m70 3位入賞
外川 天寿(経営学部スポーツ経営学科1年 北海道 斜里高校出身)

【種目】男子やり投 【記録】66m80 7位入賞
水野 佑哉(再掲)



硬式野球部

BASE BALL



2015年岐阜県学生野球秋季リーグ戦で優勝!

リーグ最終戦マウンドを託されたのは、左のエース栄野川盛隆さん。中盤まではランナーを背負いながらの我慢我慢の連続。それでもしり上がりにストレートが伸び、終わってみれば10回を2安打完封・完投で今季4勝目、見事胴上げ投手となりました。

打線は、序盤から相手投手の140km後半のストレートに押され気味の展開でしたが、試合終盤にかけて狙い球を絞り徐々に攻略、延長10回、安打と四球で2死満塁とし、今季好調の大友伸久さんが左前に運びサヨナラ勝ち!優勝を手に入れました。



●個人表彰

<最高殊勲選手/最優秀投手>

與座 海人(経営学部スポーツ経営学科2年 沖縄県 沖縄尚学高校出身)

●ベストナイン

○投手 栄野川盛隆(経営学部スポーツ経営学科2年 沖縄県 興南高校出身)

○二塁手 知念 幹也(経営学部スポーツ経営学科3年 沖縄県 宜野座高校出身)

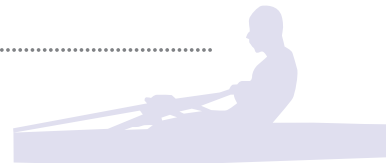
○遊撃手 大友 伸久(経営学部スポーツ経営学科3年 静岡県 島田樟誠高校出身)

○外野手 徳元 佐亮(経済学部公共政策学科2年 沖縄県 興南高校出身)



ボート部

BOAT



全日本選手権で女子が初のメダル獲得!

9月10日(木)から13日(日)、埼玉県戸田市戸田ボートコースにて第93回全日本選手権大会が開催され、本大会において、本学ボート部女子が初のメダルを獲得しました。

序盤は、スタートから飛び出した明治大学を、岐阜経済大学と立命館大学が追いかける展開となりました。中盤、地力にまさる立命館大学がトップにたち明治大学と競り合う中、本学チームはリズムよく確実に3位をキープしました。終盤、明治大学との差を詰め逆転が期待されましたが、順位は変わらずそのままゴールとなりました。



左:福井さん、右:長谷川さん



●女子舵手なしペア 3位

福井 美紀(経営学部スポーツ経営学科2年 香川県 坂出商業高校出身)

長谷川 楓(経営学部スポーツ経営学科2年 静岡県 二俣高校(現:天竜高校)出身)

2015年度下半期の主な課外活動成績

サッカー部

通算成績 7勝10敗1分 勝ち点22 6位



女子ソフトボール部

東海学生リーグ2部秋季リーグ戦 5位

男子バレーボール部

東海大学男子バレーボールリーグ1部リーグ戦秋季大会 5位

女子バレーボール部

東海大学女子バレーボールリーグ2部リーグ戦秋季大会 4位

Close-up OB

OB紹介

1

45年続く老舗塗装会社の3代目

Q1. 現在の業務内容について教えてください。

現在、森塗工株式会社で代表取締役を務めています。祖父の時代から45年続いている会社です。業務内容は建物の塗装工事で、簡単に言うと、ペンキ屋さんです。会社の経営管理はもとより、打合せ・見積り、現場での作業と1人何役もこなしています。大変だろうと言う方もみえますが、これが自分のスタイルなので楽しんでます。

Q2. 在学中はどのような大学生活を送っていましたか？

現在のように、施設も充実していなかったし、部活動も盛んでなかったので、部活に属していませんでした。高校まで野球をやっていたので、大学でスポーツから離れてしまったことは後悔していますね。自分は、商業科からの推薦入学だったので、勉強は大変苦労しました。

あと、大学でアルバイトを始めて、お金を稼ぐことの大変さを知りました。この頃からですかね、親に感謝という気持ちが芽生えたのは。

Q3. 大学で学んだことで役に立っているのはどんなことですか？

そうですね。大学で学んだ学問が現在の仕事に直接役立ってはいません。しかし、高校までと違い大学は、事細かく指導などはしてくれません。ある意味、放任主義というか、大人として扱ってくれました。遊びたければ遊ばしい、でも責任は自分でとれよみたいな。自己責任、ということをお願いしたと思います。このことは、働くうえで非常に役立っています。仕事も同じで、さぼりたければさぼれます。しかし、結果として自分に跳ね返ってきますから。



Q4. 在学生に向けて一言メッセージをお願いします。

後輩のみなさんには、『時間』について考えて欲しいです。1日24時間、誰にも平等にありますが、過ぎた時間は、お金で買えません。時間をどう使うかは、1人1人の意識の問題です。挑戦したいことがあるのなら、すぐにでも挑戦するべきです。結果がどうであれ、どう取り組んだのかは次の挑戦に役立つはずで。失敗してもいいんです。むしろ、失敗から学ぶことの方が多くはないでしょうか。若いうちの苦労は、この先の人生に役立つはずで。



森塗工株式会社 代表取締役

森 祐治さん

経済学部経済学科(1994年度卒業)

OB紹介

2

地域に根ざした「街の身近な法律家」

Q1. 現在の業務内容について教えてください。

司法書士として独立開業後2年を経過しました。業務内容は、司法書士法に定められている業務、具体的には、不動産や法人の登記申請・簡易裁判所訴訟代理・裁判所提出書類作成・成年後見人業務等が主な業務となります。司法書士の異名である「街の身近な法律家」として、地域密着をモットーに日々業務に追われています。

Q2. 在学中はどのような大学生活を送っていましたか？

私が在学中一番力を入れていたことは「部活動」です。当時は、天文部に在籍して、活動の一環として、池田山で天体観測をしたり、学園祭にてプラネタリウムや、カフェを運営したりもしました。学業の方は経済学部経済学科に所属していましたが、部活動に傾倒しすぎるあまり、4年で卒業は出来ましたが、かなりぎりぎり単位を取得したのが良い思い出です…。

Q3. 大学で学んだことで役に立っているのはどんなことですか？

大学の講義で学んだことで、現在の職業に直接関係してくるものは「憲法」「民法」「商法」等の法律分野ですが、仕事で会社経営者とお話することが多く、往々にして話題が政治・社会・経済になるので、常に社会情勢に対してアンテナを張っていく必要があり、そのようなアンテナを張る習慣を身につけられたこと、が今でも役に立っていると思います。

さらに、学生時代に培った学友との友好関係も、かけがえのない宝物として大切にしていると思います。

Q4. 在学生に向けて一言メッセージをお願いします。

私が司法書士を志したのは、30歳を過ぎてからで、それまでは全く関係の無い仕事をしていました。今となっては遅いですが“もっと早くやっておけば”と思います。学生さんの中には、将来の夢や目標が“はっきりしている人”“そうでない人”様々だと思います(私は後者でした)が、はっきりしている人はそれに邁進して頂き、そうでない人は、夢や目標を探すのは時間が掛かるので、とりあえず、何でもいので資格を取ることをお勧めします。誰でも取れる資格ではなく、ちょっと難関な資格なら一層良いかと思います。



あさの司法書士事務所

浅野 大輔さん

経済学部経済学科(1997年度卒業)



経営学部

ため ふさ まき
為房 牧 専任講師



私が研究している会計は、企業の経営実態を映し出す鏡です。ヒトやモノの動きが全て会計数値として財務諸表に表れてきます。

法律上、会社に人格が与えられているように、財務諸表は、私たちの健康診断書のようなものです。主要な診断書として、企業の財政状態を示す貸借対照表、経営成績を示す損益計算書、そして資金収支を示すキャッシュフロー計算書などがあります。私たちは年に1度の定期的な受診を勧められていますが、企業はその健康状態を定期的に開示するよう法律で義務付けられています。

財務諸表に載せるべき項目や数値を決めるルールが会計基準です。もともと会計基準はその国・地域の慣行や法令等に基づいて成り立っているため、異なる基準に則って作成された財務諸表は単純に比較することができません。企業の経営活動がグローバル化するにつれて、国際的に統一した会計基準が求められるようになってきました。それが、国際財務報告基準（IFRS）です。

現在、わが国において、異なる4つの会計基準の適用が認められています。個人的には好ましい状況と思いませんが、会計基準のあり方として、IFRSのみを適用を是認しているわけではなく、国・地域や企業環境に符合したものであるべきと考えています。私の研究テーマは、異なる会計基準でも、投資家が適切な意思決定が行えるよう、どの程度（範囲）の相違であれば投資意思決定に影響を与えないのかということについて、理論的研究を行っています。加えて、企業に社会的責任が求められる今日において、財務情報だけではなく、非財務情報をも統合させた企業のディスクロージャーを考えていく必要があると考えています。

PROFILE

岡山で生まれ育ちました。大学時代に、実学である会計学を専攻しました。自分の将来を少しでも真剣に考え始めたとき、「英語・パソコン・国際会計」という新・三種の神器が就職に必須という記事を目にし、カナダのトロントに留学しました。様々なバックグラウンドをもつ学生とのコミュニケーションを通じて、これら3つが国際的に共通したツールであることを実感し、どこでどんな仕事をしようともこれらを基軸とした職に就こうと決めました。正直、現職は想定外でしたが、ブレることなく国際会計の教員として2015年4月に本学に着任いたしました。

趣味拝見

趣味はたくさんありますが、最近、7歳から大学卒業まで続けていたバイオリンを再開しました。今はまだ、昔の教本を使って1人で練習しています。ゆくゆくは大学時代のオーケストラ仲間とアンサンブルをしたり、アマチュアオーケストラに入ってシンフォニー（交響曲）を弾いてみたいと思っています。ベートーベンが好きです。ダイナミックで力強い印象ですが、実はとても綺麗で繊細な旋律が多いのです。

それにしても、嫌々やらされて一日でも早くやめたいと思っていたものを、また自ら弾いてみようと思える日が来るとは、私以上に親が驚いていると思います。



大学時代の部活動にて

近著紹介

生態学が語る東日本大震災

—自然界に何が起きたのか—

日本生態学会東北地区会編（共同執筆） 文一総合出版 2016年3月

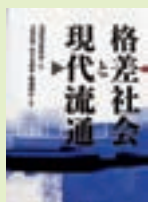


経営学部 教授
森 誠一

本書は、先の大震災が引き起こした津波が沿岸生態系に与えた影響とその回復について、生態学者によって調査研究された成果をまとめ、広く普及するために刊行された。その分担執筆として、森は「津波震災で誕生した大槌町イトヨの新集団とその保全」を寄稿した。数百年に一度という頻度で発生した大規模な攪乱について、震災前から調査活動をしている岩手県大槌町の湧水河川とそこに生息するイトヨにどのような影響を与え、かつどのように応じたのかを解説し、その保全が復興まちづくりに地域連携の中でいかに活用されているかを紹介している。

格差社会と現代流通

大野哲明、佐々木保幸、番場博之 編者（共同執筆） 同文館出版 2015年10月



経営学部 専任講師
中西 大輔

近年、「格差社会」を考察する研究成果が多くみられるようになりましたが、消費や流通に対する影響、さらにはその反作用などを取り上げた研究はあまりみられません。そうした中で、本書は、格差社会の実相を示し、そのもとでのマーケティングや消費の変容、流通チャネルや流通分野における労働の変容などを解明しています。さらに現代の地域社会が抱える多様な問題に対しても、流通という切り口からアプローチしています。

基礎から学ぶ 流通の理論と政策 新版

番場博之編者（共同執筆） 八千代出版 2016年2月



経営学部 専任講師
中西 大輔

流通とは、購入する商品や買い物をする商店、そもそも買い物をするなど、私たちの最も身近にある経済活動です。しかし、生活に密着しているために理解している気になり、見落としがちな現象もたくさんあります。本書は、流通を取り巻く急激な環境変化を織り込んで刊行された新版ですが、旧版と同じく内容やその解説をポイントだけに絞り込み、事例も直接接に関連するものに限定して、「流通論の基礎の基礎」について学べるよう配慮しています。



1月28日(木)基本合意書を締結

学校法人岐阜経済大学と 学校法人大垣女子短期大学との 法人合併協議開始について

新聞やテレビの報道により、既にご承知の方もおられると思いますが、学校法人岐阜経済大学と学校法人大垣女子短期大学は、平成28年1月28日両学校法人の理事会において、両法人間で合併協議を開始することを議決しました。これにもとづき、両法人は合併協議開始に係る基本合意書を交わしました。今後、平成29年4月1日の法人合併を目標に協議をすすめてまいります。

なお、今回の協議は、あくまでも両大学を運営する2つの『学校法人』の合併について協議するものであり、大学の合併ではありません。また、平成28・29年度入学者についても、現状通りで変更はありません。

合併協議開始の経緯と目的

このたび、学校法人岐阜経済大学並びに学校法人大垣女子短期大学の代表者間において、今後の18歳人口の減少を背景とする大学間競争に対処するとともに、地方創生等、地域における高等教育機関としての期待に從前に増して応えられるよう、双方が有する経営資源を一体的に有効活用し、もって経営基盤の強化を図るため、学校法人の合併に向けた協議を開始することの基本的合意に至りました。

合併協議開始の意義

- ①18歳人口急減期を迎えるにあたり、両法人の合併によるスケールメリット、及び双方が保有する特色ある経営資源の有効活用による相乗効果を生み出すことが可能となり、経営の安定化に資するものであります。
- ②西濃地域の主要高等教育機関の一元化により、地域における「知の拠点」として、教育、文化、地域振興、スポーツ、健康福祉など、様々な分野での地域貢献の可能性が広がります。
- ③本合併により、地域が期待する高等教育機関としての持続的発展を指向でき、西濃学園都市の実現に近づくことができます。

江西師範大学からの留学生を紹介します

本学の協定校である中国・江西師範大学から来日している2名の留学生(編入学生・短期留学生)から、日本での生活や今後の意気込みについてうかがいました。



経済学部経済学科
科目等履修生(3年次編入学予定)

リ カンさん

日本に来てから、あっという間に半年が経ちました。毎日とても楽しくて、充実しています。実は日本に来る前は、両親と300km以上離れたことが一度もない自分は、本当にうまくやっていけるのかなと思っていました。でも、岐阜経済大学の皆さんは想像以上に親切だし、先生や友達からもいろいろ助けてもらっているので、今まで生活の中で困ったことは何一つなかったと言えます。

この半年間で、自分の日本語の能力はもちろん伸びましたし、ほかに、いろいろ成長したと感じています。また、先生はとても優しく、分からないことがあったら何度でも詳しく説明してくれるおかげで、授業もとても順調に進んでいます。

来学期の授業は今学期より大変だと思いますが、自分は目標を達成するために努力を惜しみません。優しい先生たちに恵まれているので、私はこれからも両親や先生たちの期待に応えられるように精いっぱい頑張っていくつもりです。



経済学部経済学科
短期留学生

ゴ ベンさん

私は中国の南部に生まれ、子どもの時からアニメをはじめ、様々な日本の文化と接してきました。日本のアニメやドラマを見ながら育つうちに、だんだん日本に対して興味をもちました。江西師範大学で日本語科を選び、一所懸命勉強し、ようやく今年、交換留学生として日本に来ることができました。

来日して半年が過ぎましたが、日本の生活にも慣れ、留学生活を通じて、改めていろいろなことが分かりました。正直、外国で初めてのひとり暮らしは不安がありました。しかし、学生課の方をはじめとして、多くの方々に大学生活のお世話をさせていただき、留学生活にも慣れてきました。

日本の大学の授業は中国とほぼ同じくらいで、自由な時間が多くあり、好きな研究や学問に打ち込むことができます。岐阜経済大学に来てからは、十万石まつりをはじめ、ホームステイや大垣市立中川小学校での交流事業など、多くのイベントに参加し、様々な経験を通じて留学生活が豊かになり、日本に対しての興味もより一層深まりました。

私は将来、日本の大学院に進学したいので、4月からの新学期は経済学を精一杯勉強し、さらに今、興味のある歴史学ももっと勉強したいと思っています。

教職員人事

学内役職者

宇佐見 正史 経済学部長(経済学部教授)
 安田 晶彦 教務部長・留学生別科長(経営学部准教授)
 中川 裕司 キャリア支援部長(経営学部教授)

高橋 信一 経営学部長・大学院研究科長(経営学部教授)
 森 誠一 学生部長(経済学部教授)

2016年4月1日付

退職

2016年2月29日付

鈴木 美保 企画広報課主事